

# 防音

## 子どもの泣き声や生活音 部屋探し 決め手は

まもなく転勤などで春の引っ越しシーズン。子どもがいる家庭は、泣き声や跳びはねる音などで隣人に迷惑をかけないか防音に気になる。在宅勤務が増えて音に敏感になっている人も多いはず。部屋探しのポイントは――。

(有田麻子)

中3と中1、小4、幼稚園年長の4人の子を育てる伊藤美也子さん(45)は、釧路市は苦しい思い出がある。第1子の出産後、当時住んでいた苫小牧の木造アパートで下階の住人から「静かにして」と苦情がきた。防音じゅうたんやマットを2重に敷いて対策したが、下から棒のようなもので床をつつかれ「精神的に参った」。下階の住人は夜勤の仕事をしているようだった。子どもの泣き声はどうしようもなく、賃貸の一軒家に引っ越した。その後、共同住宅には住んでいない。

5歳と2歳の女の子を育てる釧路市の主婦亀井祐子さん(35)は、転勤族。鉄筋コンクリート造りのマンション1階に住む。部屋選びでは子育て世帯が住んでいるかどうかが決め手になった。「駐輪場にママチャリや子どもの自転車置いてあるかを目安にした」と話す。子どもの夜泣きを気にして隣室のない角部屋を寝室にしている。

賃貸住宅仲介業の常口アトム営業推進グループ課長萩原久士さん(45)は「宅地建物取引士」は「音の感じ方は人それぞれ。ちょっとした音が人によってものすごい騒音に聞こえることも



橋本典久さん



萩原久士さん

ある。完璧な物件はありません」と話す。

その上で「建物の構造に注目を」と助言。防音面で無難なのは鉄筋コンクリート造り。気密性が高く音が漏れにくい。ただ、地域によっては物件が少なく家賃は高め。木造なら、工法に注目する。耐震性が高く暖かい一方で、音が反響しやすい工法もある。

室内の扉も要注意だ。ドアの開閉音に関する苦情は多い。スライドするタイプ



(萩原久士さんへの取材を基に作成)

### 子育て世帯が部屋を選ぶポイント

- ① 建物の構造をみる
  - 鉄筋コンクリート造りは遮音性が高いとされる
  - 木造なら、工法によって耐震性や音の響きやすさが異なるので、確認を

### ② 扉を確認する

- 床をひきずるタイプの引き戸は開閉する時に音が階下に響きやすい

### ③ 公園からの距離

- 子どもが遊ぶ公園が半径200m以内にあると安心

### ④ 現地を見て集合住宅の雰囲気をつかむ

- 2LDK以上の間取りが中心ならファミリー層が多い傾向にある

### 騒音トラブルを避けるために

- コミュニケーションが大切。入居時にあいさつに行き、隣人や下の階の住人と信頼関係を築く
- おもちゃの落ちる音などの軽量の衝撃音には、防音カーペットが効果あり
- 子どもの泣き声対策には、厚手のカーテンをつけたり、家具の配置を変えたりする

(橋本典久さんへの取材を基に作成)

は開閉時の音が響きやすく「開け閉めして確認を」と萩原さん。物件選びでは、公園が徒歩圏内にあるかどうかもポイント。室内で子どもが騒いだら公園に行くとい。ファミリー層が住んでいるかどうか、可能な範囲でチェックを。萩原さんは「子育て世帯なら生活リズムが重なり、トラブルにつながりにくい」と話す。物件の間取りは2LDK以上が多ければ、ファミリー層も多い可能性がある。